

## COCET『研究論集』執筆要綱

(版組およびページ番号・ページ総数)

1. 原稿の版組およびページ番号・ページ総数は、次のとおりとする。

(1) 原稿は A4 版縦置き横書き 1 段組とし、上下左右にそれぞれ 30mm の余白をとる。1 ページの字数は、

和文の場合は 44 文字 38 行、英文の場合は 88 文字 38 行とする。

(2) 原稿にはページ番号を入れない。論文の長さは、図表・資料・参考文献すべてを含めて 10 ページ以

内とし、ページ総数は偶数であることが望ましい。

(字体および算用数字表記)

2. 字体および算用数字表記は、以下のとおりとする。

(1) 字体は、和文については MS 明朝、英文については Century とし、フォントは和文英文ともに 10.5

ポイントとする。英文要旨の見出し、キーワードの見出しと内容、章・節・項目・謝辞・注・参考文献の見出しはすべてボールドとする。

(2) 算用数字は、本文中では桁数に関わらず半角数字を用いる。算用数字のフォントは和洋を混在させ

ず本文全体で統一する。また図表のタイトルのみ全角を用いる。

(タイトルおよび執筆者名)

3. タイトルおよび執筆者名の表記は、次のとおりとする。

(1) タイトル

1行目から始め、センタリングする。フォントは10.5ポイントとする。サブタイトルがある場合は、改行した上で「-」で始めて半角空け、サブタイトル、さらに半角空けて再度「-」をつける。

## (2) 執筆者名

タイトルから1行空けて記し、センタリングする。姓名の間を全角スペース空け、名前の右肩に上付き文字「<sup>1\*</sup>」を入れる。上付き文字の数字は半角、アスタリスクは全角とする。

連名の場合は執筆者名の間を全角のカンマで区切り、上付き数字とアスタリスク「<sup>1\*, 2\*, …</sup>」で所属番号を示す。執筆代表者は「<sup>1\*</sup>」とする。勤務校は本文の終わりに(〇〇高等専門学校)と付記すること。

## (3) 英文表記

和文原稿の場合は、執筆者名から1行空けて英文タイトルを、サブタイトルがある場合は半角「:」を付し、改行してサブタイトルを、さらに1行空けて英綴りの執筆者名を、いずれも10.5ポイントでセンタリングして記載する。執筆者が2名の場合は執筆者名の間を“and”で区切る。3名以上の執筆者の場合は、最後の区切りのみ“and”とし、それ以外はカンマで区切って横に並べる。なお、氏名の英文表記はTANAKA Taroとする。

## (4) 英文原稿

英文原稿の場合、タイトル・執筆者名は英文のみとし、和文タイトル・和文執筆者名は記載しない。

## (執筆者の所属)

4. 本文の末尾に、全執筆者の所属機関名を記す。上付き数字とアスタリスクを( )の左肩に記し、( )に所属機関名を入れる。英文原稿の場合は英語表記とする。例：

<sup>1\*</sup> (春野菜工業高等専門学校)、<sup>2\*</sup>(NIT Mibu College, Hahakigi Campus)、<sup>3\*</sup>(Yoknapatawpha College of

Technology)

(英文要旨 : **Abstract**)

5. 英文要旨は、10.5 ポイントの Century ボールドで「**Abstract**」と見出しを付し、改行した上で、英文で 100 words 以内とする。フォントは Century で 10.5 ポイントとする。1 行目は 5 スペースインデントする。

(キーワード : **Keywords**)

6. キーワードは、10.5 ポイントの Century ボールドで「**Keywords**」と見出しを付し、全角のコロンを入れ、その後にキーワードを Century ボールドで列挙する。英単語もしくは英フレーズで表し、4 つ以内とし、先頭の文字を大文字とする。句読点は半角カンマを用い、2 スペースを空けて次のキーワードを記す。例 :

**Keywords : Examples, Corpus-based, Encoding, Collocation**

(章・節・項目の見出し)

7. 章・節・項目の見出しは次のとおりとする。
  - (1) 章の見出しは 10.5 ポイントの MS 明朝ボールドとし、上を 1 行空ける (改行 1 行)。見出し番号の数字は半角の算用数字とし、後ろにドットを入れ半角スペースの後、見出し文を記す。
  - (2) 節・項目の見出しも 10.5 ポイントの MS 明朝ボールドとし、上を 1 行空ける。ただし章見出しの直後に文章や図表がない場合は、章見出しとの間の 1 行空けは不要。見出し番号は半角の算用数字とし、

数字間は左右スペースなしでピリオドを入れる。見出し文との間は半角スペース空ける。

(本文)

8. 本文は次のとおりとする。

(1) 和文

横書き 1 段組で 44 文字 38 行を 1 ページとし、字体は 10.5 ポイントの MS 明朝を用いる。段落の最初は全角 1 スペース空ける。句読点は“、”“。”を用い、全角で表記する。( ) も全角を用いる。

(2) 英文

1 段組で 88 文字 38 行を 1 ページとし、字体は 10.5 ポイントの Century を用いる。段落の最初は 5 スペースインデントする。

(図、表、写真、グラフ等)

9. 図、表、写真、グラフ等は次のとおりとする。

(1) 写真とグラフは図として扱う。

(2) 図、表には番号と簡潔なタイトルをつける。タイトル番号は全角を用い、「図 1」、「表 1」等と表記する。番号、タイトルともに 10.5 ポイントの MS 明朝で記す。コロンは全角を用いる。英文原稿の場合、タイトル番号は半角を用い、「Fig. 1」、「Table 1」等と表記する。コロンは半角を用い、半角 1 スペースの後、簡潔なタイトルをつける。

(3) タイトルの位置は、表の場合は上部、図の場合は下部とする。

例： 表1：タイトル



図1：タイトル

例： Table 1: ○○○○



Fig. 1: ○○○○

(4) 図、表は白黒で作成し、本文中に挿入する。図、表中の文字は読み取りやすいよう十分に大きくし、  
画像は鮮明なものを用いる。

(文献の引用・言及)

10. 文献の引用については、次のとおりとする

(1) 原文をブロック引用する場合は、本文と引用部分との間を1行ずつ空け、和文の場合は3字分、英文の場合は10スペース行頭を下げる。なお続けてブロック引用する場合は、引用と引用の間を一行空

ける。

(2) 引用を本文中に組み込んでも3行以内のものは、「」内に入れて示す。ただし例文比較のようなものはブロック引用しても良い。省略した部分は「…」(和文)もしくは「...」(英文: three dots ただし dot の後ろはそれぞれ半角1スペース空ける)で明示する。

(3) 引用・言及の典拠は、( )中に執筆者名と執筆年を記す。執筆年は半角表記で、執筆者名と執筆年間に全角コロンを入れる。例:(吉田,1999)。 ページ数を示す必要がある場合は(吉田,1999:138-39) [和文の場合コロンは全角、英文の場合は半角]とする。本文中にそれらの書誌データのいずれかが示されている場合は、( )中には記載されていない情報だけを示す。

(謝辞)

11. 予算や研究内容へのサポートがあった場合は、「謝辞」でその事実を示す。見出しは「謝辞」とし、本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。見出しは10.5ポイントのMS明朝ボールド、その後の文章は10.5ポイントのMS明朝を用いる。文章の文体は本文と統一する。

(注)

12. 「注」については、以下のとおりとする。

(1) 本文中に説明・議論内容を入れることが困難な場合にのみ、「注」を用いる。注は脚注でなく、尾注とする。

(2) 見出しは「注」とし、「謝辞」がある場合はその文末から1行空けて、ない場合は本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。

(3) 見出しは 10.5 ポイントの MS 明朝ボールド、それ以外は 10.5 ポイントの MS 明朝を用いる。

(4) なお本文中には、<sup>注1)</sup><sup>注2)</sup> のように上付きで挿入する。句読点 (“、”や “。”) がある場合は、その中に組み込む。例：言及があるが<sup>注1)</sup>、 とされている<sup>注2)</sup>。

#### (参考文献)

13. 引用・参考にした文献は、原稿の最後にまとめて次のとおりに記載する。

(1) 見出しは「参考文献」とする。10.5 ポイントの MS 明朝で、ボールドを用いる。上を 1 行空ける。

(2) 書誌データは、見出しの次の行から、外国語文献、日本語文献の順に記す。両文献の間は 1 行空ける。ただし「外国語文献」、「日本語文献」という小見出しは不要。

(3) 表記は 10.5 ポイントとし、句読点は外国語文献では英語 Century (半角) の “ , . ; : ” を、日本語文献では日本語 MS 明朝 (全角) の “ , . ; : ” を用いる。

#### [ア. 外国語文献]

10.5 ポイントの Century を用い、著者のアルファベット順で列挙。基本的には APA スタイルに則り、各ピリオドの後は 1 スペース空け、2 行目以降は行頭を 4 スペース空ける。ファーストネームは最初の文字だけ表記する。

a) Article in a journal: Author (Year). The Title of Article. *The Title of a Magazine*, Vol.xx(x),  
pages. (2 行目以降は半角 4 文字インデント。タイトルと巻はイタリック体に。)

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan*, 35(3), 123-34.

Cocet, T., & Kosen, J. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan*, 35(3), 123-34.

b) Article in a book: Author (Year). The Title of Article. In Author (Ed.), *The Title of a Book* (pp.xxx-xxx).

Place: Publisher.

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. In S. Kosen (Ed.), *Teaching Technical English in Japan* (pp.123-134). Tokyo: Whitewell.

c) Book: Author (Year). *The Title of a Book*. Place: Publisher.

<ex.>

Kosen, J. (2001). *Teaching English for Engineering Students: A Pedagogical Framework and Methods*. Tokyo: Whitewell.

d) Internet: Author (Year). *The Title of Article*. Retrieved date, from: URL

<ex.>

Kosen, J. (2001). *Teaching English for Engineering Students: A Pedagogical Framework and Methods*. Retrieved February 2, 2016, from: <http://www.cocet.com/article/05.pdf/>

[イ. 日本語文献]

10.5 ポイントの MS 明朝を用い、著者のあいうえお順で列挙。句読点は“、”“。”を用い、全角で表記する。

( ) も全角を用いる。2 行目以降は行頭を全角 2 文字空ける。

a) 書物：著者名 (出版年). 『タイトル○○○○○○○○○○○○○○』 場所：出版団体.

(例)



〇〇〇〇 (編) (2011). 『COCET40 年史』 東京：〇〇〇出版.

b) 論文：著者名 (出版年). 「論文名〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」『書物および雑誌のタイトル〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇』 第〇巻, 第〇号, ページ番号. (2 行目以降は全角 2 文字インデント)

(例)

〇〇〇〇 (2009). 「音読を重視した指導の試み—〇〇高専の事例をもとに」『全国高等専門学校英語教育学

会研究論集』 第〇号, 1-10.

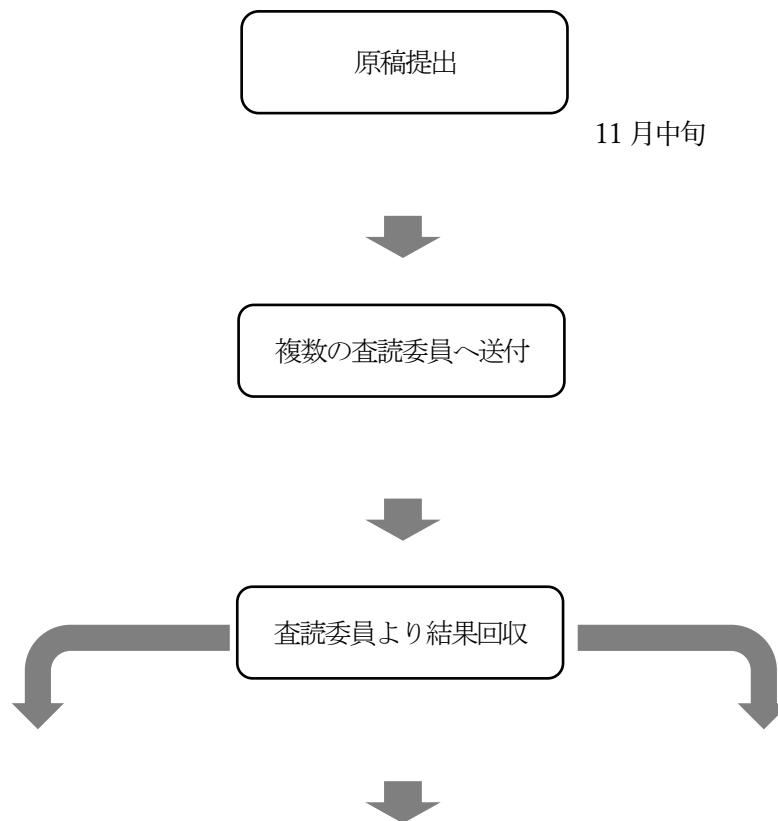
c) インターネット：

著者名 (出版年). 「論文・記事名〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」. URL (最終検索日：)

(例)

〇〇〇〇 (2009). 「多読を重視した指導の試み—〇〇高専の事例をもとに」.

<http://www.cocet.com/article/05.pdf/> (最終検索日：2016 年 2 月 2 日)



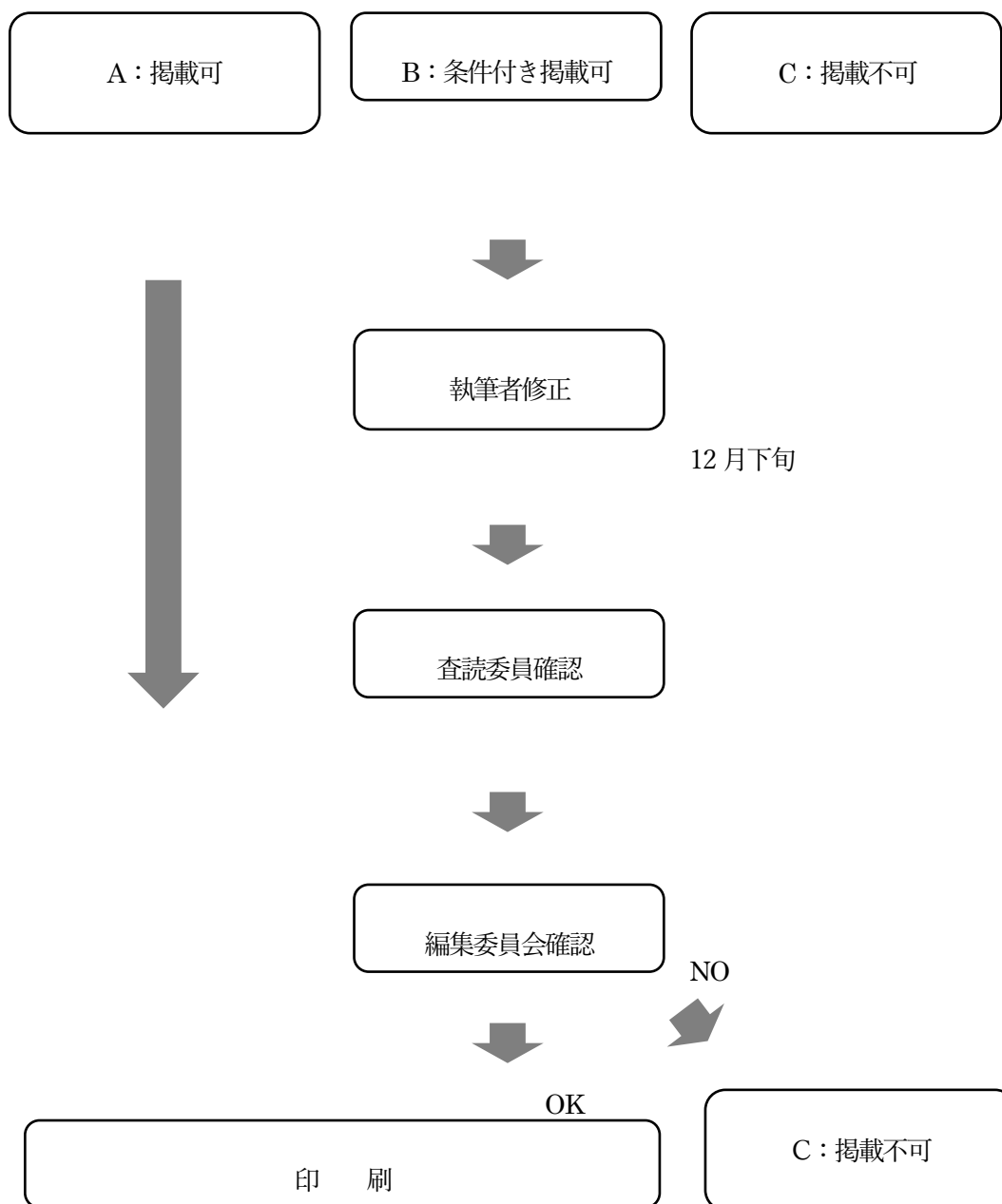


図1 原稿執筆から印刷までの流れ

(この規定は平成29年9月14日より適用する)